<table>
<thead>
<tr>
<th>Title</th>
<th>新羅史研究(今西龍遺著, 近澤書店刊行)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Sub Title</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Author</td>
<td>淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)</td>
</tr>
<tr>
<td>Publisher</td>
<td>三田史学会</td>
</tr>
<tr>
<td>Publication year</td>
<td>1934</td>
</tr>
<tr>
<td>Abstract</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Notes</td>
<td>書評</td>
</tr>
<tr>
<td>Genre</td>
<td>Journal Article</td>
</tr>
</tbody>
</table>
新羅史研究
（今西龍造著）

本書は新羅史を専攻させられた、故今西龍博士の遺稿の一部で、これには博士が新羅史研究に注力した数多くの出発点が新羅の旧都庚州の探訪に基づいて、新羅に関する研究が紹介されている。本書の内容は先ず最初に総論としての新羅史通説を載せ次に新羅研究の最初の報告としての新羅旧都庚州の調査記を掲げ以下の職制度、伝説、金石文、遺物に関する研究を順次に敷めてある。

桓武天皇の時代に、新羅は盛ることで、特に交通の交通が盛んで、その交通に関する研究は特に重要である。その後、新羅王朝と日本の交通が盛んで、その交通に関する研究は特に重要である。このため、新羅研究の発展は交通に関係している。